

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立玉出幼稚園
令和 7 年 3 月

大阪市立玉出幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和5年度は、運動会や生活発表会などの行事を、来賓を招いたり、全学年合同で開催したりと、にぎやかに行うことができた。また、未就園児活動も再開することができて、様々な人との関わりをもつことができた一年となった。今年度も地域との連携を深めていき、地域の中で子どもたちを育てていけるよう努めていきたい。子ども一人一人の実態を把握し、発達段階に応じた保育内容の工夫に努め、子どもや保護者の思いに寄り添った園づくりを目指したい。教職員が一丸となり、保護者や地域の方から信頼を得られる幼稚園となるように努めていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは、安全な生活のための約束を知り、守ろうとするようになりましたか」の項目に肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は互いを思いやる気持ちを育てていますか」「お子さんは、いろいろな遊びや活動に自分から進んで取り組み、楽しんでいますか」の項目に肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園はお子さん一人一人の実態に応じた支援をし、互いが認め合える学級経営をしていますか」の項目に肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の育ちについて分かりやすく伝えていますか」の項目に肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは、自分なりに考えたり、工夫したりして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは健康的な生活習慣を身に付けていますか」「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は、日々の保育の中で、保育内容や環境の工夫に努めていますか」の項目に肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は、地域や学校と連携し、交流することに努めていますか」の項目に肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは、安全な生活のための約束を知り、守ろうとするようになりましたか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は互いを思いやる気持ちを育てていますか」「お子さんは、いろいろな遊びや活動に自分から進んで取り組み、楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園はお子さん一人一人の実態に応じた支援をし、互いが認め合える学級経営をしていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の育ちについて分かりやすく伝えていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは、自分なりに考えたり、工夫したりして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは健康的な生活習慣を身に付けていますか」「お子さんは、自ら体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は、日々の保育の中で、保育内容や環境の工夫に努めていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は、地域や学校と連携し、交流することに努めていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

令和6年度末の保護者アンケート結果については、以下の通りである。

- ・「お子さんは、安全な生活のための約束を知り、守ろうとするようになりましたか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は76%であり、目標を達成できなかった。
- ・「幼稚園は互いを思いやる気持ちを育てていますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は98%、「お子さんは、いろいろな遊びや活動に自分から進んで取り組み、楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は94%であり、目標を達成した。
- ・「幼稚園はお子さん一人一人の実態に応じた支援をし、互いが認め合える学級経営をしていますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は98%であり、目標を達成した。
- ・「幼稚園は就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の育ちについて分かりやすく伝えていますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は94%であり、目標を達成した。
- ・「お子さんは、自分なりに考えたり、工夫したりして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は96%であり、目標を達成した。
- ・「お子さんは健康的な生活習慣を身に付けていますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は74%であり、目標を達成できなかった。
- ・「お子さんは、自ら体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は94%であり、目標を達成した。
- ・「幼稚園は、日々の保育の中で、保育内容や環境の工夫に努めていますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は98%であり、目標を達成した。
- ・「幼稚園は、地域や学校と連携し、交流することに努めていますか」の項目に最も肯定的な回答をした割合は94%であり、目標を達成した。

以上の通り、保護者の教育活動に対しての理解度が大きいことが分かった。ただ、目標を達成できなかった項目もあるので、次年度その項目に重きを置きながら、様々な保育内容を考えていきたい。

大阪市立玉出幼稚園令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは、安全な生活のための約束を知り、守ろうとするようになりましたか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。76% ○ 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は互いを思いやる気持ちを育てていますか」98%「お子さんは、いろいろな遊びや活動に自分から進んで取り組み、楽しんでいますか」94%の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。 ○ 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園はお子さん一人一人の実態に応じた支援をし、互いが認め合える学級経営をしていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。98% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【1—6 安全教育の推進】</p> <p>自分の身を守るための意識をもち、安全な生活ができるように、子どもの実態に応じた指導法を工夫する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全点検表に基づき、毎月、安全点検を実施する。 ・安全に生活するためのきまりについての指導を学期に1回以上行う。 ・様々な災害を想定した避難訓練の年間計画を立て、毎月実施する。 	B
<p>取組内容② 【2—1 道徳教育の推進】</p> <p>いろいろな人と関わりながら、遊びの中で意欲的に活動し、自己肯定感を高められるような内容を工夫する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりできるような話し合いを月に1回以上行う。 ・週に1回以上、保育の打ち合わせを実施し、子どもの実態把握をする。 	B
<p>取組内容③ 【2—4 インクルーシブ教育の推進】</p> <p>一人一人の実態に応じた支援をし、互いが認め合える学級経営をする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内委員会を学期に1回以上行う。 ・学期に1回以上、専門機関と連携をとり、幼児理解に努める。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで「お子さんは、安全な生活のための約束を知り、守ろうとするようになりましたか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が63%、年度末が76%であり、目標の80%を達成できなかった。 ・毎月の安全点検は、予定通り行うことができた。複数人で点検し、不具合があった場合には教職員間で共通理解し、改善することができた。子どもたちが安全に生活できるよう、これからもしっかりと取り組んでいきたい。 ・毎朝の園庭整備を丁寧に行うことで、遊具・用具の破損箇所やネコの糞などに気付くことができ、子どもたちが安心して安全に遊べる環境を整えることができた。 	

- ・毎月、安全・健康な生活についてのねらいを立て、それに基づき毎月の安全指導を3クラスで行った。

4、5月：園庭で安全に遊ぶための約束の確認

6月：傘の安全な使い方

7月：熱中症予防についての約束

8、9月：熱中症予防のための約束の再確認

10月：交通ルールについて

11月：はさみの持ち方や使い方の約束

12、1月：寒い時期の安全な遊び方

2、3月：自転車の安全な乗り方

- ・ねらいを立てることで、安全について意識をもつことができた。

年間での計画を立てていたが、そのときに必要な安全指導を考え、柔軟に行うことで、子どもや保護者の実態・課題に応じた指導ができた。全体での指導の後に、各クラスでも振り返る時間をもつたことで、その指導をより身に付けることにつながった。

- ・5歳児は、月1回の安全指導や月刊絵本を参考に、安全啓発のポスターを作成して園内に掲示した。集会や降園連絡でその内容について知らせることで、園全体で安全目標を共通理解することができた。

- ・5月に西成消防署の方に来ていただき、避難訓練の様子を見てもらったり、火災時の身の守り方を教えてもらったりした。消防署の方に話をしてもらったことで、より真剣に火災について考える機会となった。また、消防車を近くで見せてもらったり、乗せてもらったりし、火災時の消防車の役割についても知ることができた。

- ・7月には、西成警察署の方に来ていただき、交通安全指導を行った。信号の見方、横断歩道の渡り方について学ぶことができ、日常生活の中で安全を意識して行動することの大切さに気付くことができた。保護者向けにも、自転車の安全な乗り方についての講話を来ていただき、家庭での安全に対する意識を高めるきっかけとなった。

- ・PTA役員、保健厚生委員による交通安全指導を行った。夏休み前の時期に行つたことで、夏休み中の交通安全に対する意識を高める機会となった。

- ・毎月の避難訓練は、年間計画通り実施できている。(4、5月：火災、6月：地震、7月：防犯、9月：地震・津波、10月：火災、11月：防犯、12月：火災、1月：地震・津波、2月：火災、3月：地震・津波)

- ・毎月1回、継続して訓練を行い、訓練前後の話し合いを大事にしてきたことで、非常時の行動の仕方を理解し、落ち着いて参加する力が身に付いてきた。近くにいる先生の指示だけでなく、放送や非常ベルなども自分でしっかりと聞こうとする姿勢が育った。2学期以降は、避難訓練があることを知らせずに抜き打ちで訓練を行い、子どもたちがどのように行動するのかを確認した。中には、非常時のベルや放送の音に反応せず、避難の必要性を感じていない子どもの姿も見られたので、その子どもたちの意識を高めるとともに、子どもたち全員が安全に避難できるよう、教職員間の連携を密にしていく必要があることが分かった。また、教職員に対しても抜き打ちで行うことで、しっかりと情報を捉え、どこからどう避難すればよいのかを判断するという訓練にもなった。いつ起ころか分からない災害に対しての意識が高まった。

- ・3歳児は入園してからしばらくは毎週防災頭巾を持って帰り、家庭でも頭巾のかぶり方の練習をしてもらうよう協力してもらったことで、訓練時にも前後逆にならずにうまくかぶれるようになった。そのことも落ち着いて訓練に参加できる一つの要因となった。

- ・避難訓練時の約束事について視覚的に分かることで、子どもたちの理解を

得やすかった。いつもと違うことに不安を感じる子どもも多いので、小学校に避難するときも、事前に避難の仕方や避難経路について視覚表示をした。そうしたことでもたちが落ち着いて参加する姿へつながった。

- ・9月の訓練では、大阪880万人訓練に参加し、玉出小学校に二次避難をするという訓練も行った。地震だけでなく津波の想定で訓練を行うことで、様々な災害があり、それに応じた身の守り方や避難の仕方があるということを知る機会となった。それと同時に、保護者への引き渡し訓練も行い、災害時には園と家庭との連携が必要なことを知らせ、安全に対する保護者の意識を高めることができた。
- ②・保護者アンケートで「幼稚園は互いを思いやる気持ちを育てていますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が92%、年度末が98%であり、目標の80%を達成した。「お子さんは、いろいろな遊びや活動に自分から進んで取り組み、楽しんでいますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が84%、年度末が94%であり、目標の80%を達成した。
- ・月1回の誕生会では、1つ大きくなった喜びを感じる機会となるように内容の工夫に努めた。保護者を招待し、子どもが自分は大切にされているということに気付き、喜びや嬉しい気持ちがもてるようなふれあいの場とした。保護者に甘えながら楽しむ様子が見られ、心の安定にもつながった。
- ・週1回の集会では、異年齢の関わりがもてる場をつくった。一緒に活動することで、年下の友達に優しい気持ちをもって関わったり、年上の友達に憧れの気持ちをもったりする姿につながった。
- ・子どもたちの成長や課題について、月1回の職員会議、週1回の週会議を設けた。日常の中でも報告し合えるような雰囲気に努めた。子どもの実態を知ることで、クラスの垣根を越えて、子どもたちの成長を全教職員で喜びを共有したり、頑張りを認めたり、励ましたりすることができた。子どもたちは見てくれているという喜びや安心感から自己肯定感が高まった。
- ・降園連絡やクラスだよりを通して、子どもたちの頑張りやクラスの取組について知らせ、成長を知ってもらうことで、保護者も子どもの頑張っていることに興味や関心を示し、親子の会話の時間が増えたことが子どもの意欲にもつながった。
- ・友達との関わりの中で、強い口調になってしまいう4歳児の実態から、優しく相手を傷つけない「フワフワ言葉」と、強い口調で相手が傷付く「チクチク言葉」について保健指導を行った。絵本を用いて、言われると嬉しくなる言葉と言われると悲しくなる言葉にはどんなものがあるかを考えたり、実際に起こりえる場面を想定し、その場合にはどんな言葉で伝えるとよいのかを考えたりする機会をつくった。その後も、降園前の振り返りでどのような言葉があったかを振り返り、フワフワ言葉を葉っぱにかき「フワフワの木」に貼っていくという視覚物を活用したことで、相手を思いやる気持ちを育むことにつながった。
- ・4歳児は、2学期にふれあいデーの受付を担当した。5歳児の受付する姿を見てやってみようという気持ちになり、未就園児に出席カードのシールの場所を知らせたり、名札や手紙を配ったりして、優しく接する姿が見られた。また、ふれあい遊びでも未就園児に寄り添い遊びに誘ったり、一緒に遊びを楽しんだりし、年上としての自覚をもって取り組む姿が見られた。
- ・5歳児は、2学期から保育の中で『遊びカード』と『けん玉カード』を作成し取り入れた。『遊びカード』では、一本歯下駄、短縄、一輪車、フープ、竹馬、ボールなどい

いろいろな遊びに興味や関心をもつたり、継続して遊びに挑戦したりできるよう遊びの絵をかいて示し、遊ぶごとにスタンプを押せるよう枠をつくった。また、スタンプが溜まることで子どもたちにとって遊びの意欲や自信、継続して挑戦していることが視覚的に分かりやすいよう工夫した。『けん玉カード』は2種類用意し、遊びの難度ごとに順番に技の名前と図で表示した。このカードも遊びカードと同じように遊ぶごとに印をつけることで、継続して遊びに挑戦したり、自分なりに頑張った過程を視覚的に分かりやすいように工夫したりしてカードを作成した。一人1枚配付したことで、カードをもとに自分の遊びのタイミングでカードを見ながら取り組むことができ、使いたいときに使えるという良さや自分の物があるという安心感があり、より意欲的に挑戦する姿が見られた。

- ・毎日、振り返りの時間をもち、友達の思いを聞いたり、頑張りを知ったり、自分の思いも伝え合えるようにしたことで、次の日のやる気につながったり、友達の遊びに興味をもつたりと、自分もやってみたいという気持ちをもつことにつながっていった。
- ・運動会、作品展、生活発表会の頑張りを保護者の方にメッセージを書いてもらい、教師が代読する機会をつくった。褒められたり認められたりすると嬉しそうな表情を見せ、それが更なる自信となり、次の活動の意欲へとつながっていった。
- ③・保護者アンケートで「幼稚園はお子さん一人一人の実態に応じた支援をし、互いが認め合える学級経営をしていますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が90%、年度末が98%であり、目標の80%を達成した。
- ・新学期をスタートするにあたり、教職員全員で子ども一人一人の実態や支援方法などを話し合い、情報を共有することで、同じ方向性で子どもと関わることに努めた。また、日々の保育の中での子どもの様子を、保育後職員室で話し合うことで、些細な変化にも対応することができ、有効な支援を行うことにつながった。
- ・インクルーシブ教育推進室の巡回相談（8月、12月）を活用し、学年ごとに子どもたちの様子を見ていただき、それぞれに合った支援方法を教えていただいた。
- ・今年度は、インクルーシブ教育推進室より言語聴覚士の方に月に1・2回来ていただき、子どもの言語面について個別に指導していただいた。また、教職員も口や舌の動かし方、言葉を発するときの息の出し方など専門的な知識を教えていただけたことで、保育の中でも実践することができ、学びとなった。また、子どもの言語面でも大きな変化が見られ、正しい発音の仕方を習得することができた。
- ・難波支援学校で開催された教材教具展を参観させていただいた。実際に使用されている教材が資料と共に展示されていて、つくり方や使ってみたときの感想など、具体的に知ることができ、学びにつながった。
- ・1学期の子どもの様子を見て、声かけが必要な場所の視覚支援の見直しを行った。長期休業期間を利用し、トイレのスリッパを置く位置の枠を塗り直すことで、場所が分かりやすくなり、自らスリッパを整えて置く姿が以前より多く見られるようになった。
- ・初めてのことに対して不安になる子どもが多いため、写真と文字で視覚物を作成した。行事の流れをたどることで、不安要素を払拭し、見通しをもって行事に取り組む姿につながった。
- ・登園後や降園前にすること（コップ・タオル・水筒をかける、おたより帳にシールを貼るなど）を一項目ごとに「絵カード」として視覚化した。「絵カード」を使用することで、今やるべきことが一目で理解でき、終わった活動の絵カードを裏返すことで、「絵

カードが全部裏返したら終わり」ということも分かり、見通しをもって行動することができるようになってきた。また、タイムタイマーや時計カードなどを活用し、教師と一緒に活動内容を組み立て、気持ちの切り替えができるように取り組んだ。

- ・特別支援教育連絡協議会の研修を受け、他の幼稚園、小学校、中学校の取組を聞くことができ、自園にも有効と感じた内容は、取り入れてみようと思い、学びにもつながった。

次年度への改善点

- ①
 - ・今後も安全点検、避難訓練、安全指導を行い、子ども、教職員、保護者の意識を高める。
 - ・安全面について、園ではできているが、家庭ではなかなかできていないという現状から、家庭との連携を図りながら、子どもと保護者の意識が高まるような方法を考える。
- ②
 - ・引き続き、満足感や達成感につながるような遊びの環境づくりや話し合える場を整えていく。
- ③
 - ・学期ごとに園内委員会を行い、一人一人に応じた支援の手立てを考え、教職員間で共通理解を図ることに努める。
 - ・学年が進級するにあたり、一人一人の引継ぎを丁寧に行う。

大阪市立玉出幼稚園令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した
B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった
D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の育ちについて分かりやすく伝えていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。94%</p> <p>○ 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは、自分なりに考えたり、工夫したりして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。96%</p> <p>○ 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「お子さんは健康的な生活習慣を身に付けていますか」74%「お子さんは、自ら体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」94%の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【3-1 就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進】 幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラム、大阪市立幼稚園参考教育課程を基に保育内容を検討、実践し、それを保護者も理解できるよう発信方法を工夫する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、教育課程や指導計画について見直しを行い、検討する。 ・月に1回、クラスだよりを発行して配付したり、園内に掲示したりして、保育内容を発信する。 ・就学前教育カリキュラムパイロット園の研究発表に向けて、研究内容を深め話し合ったり、共通理解したりする機会を月に1回実施する。 	進捗状況 B
<p>取組内容②【4-1 言語活動・理数教育の充実】 様々な遊びや人との関わりを通して、考えたり、工夫したりする力を育むような保育内容や指導法を工夫する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回、保育の打ち合わせを行う。 ・環境構成や手立てについて話し合う。 	B
<p>取組内容③【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 子どもが自ら基本的生活習慣を身に付けようとする知識や態度を養ったり、自ら体を動かして遊んだりするような指導法を工夫する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回保健指導を行い、その内容について保健だよりや保健室前掲示板にて知らせ、家庭との連携・啓発を図る。 ・食べ物に興味関心がもてるよう、食育に関する栄養指導を月1回行い、お弁当だよりを発行する。 ・月に1回以上、体を動かす遊びを取り入れた集会を行う。 ・月に1回以上、園内の環境を見直したり、工夫したりし、体を動かしたくなるような場について検討する機会をもつ。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 保護者アンケートで「幼稚園は就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の育ちについて分かりやすく伝えていますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が94%、年度末94%であり、目標の80%を達成した。
- ・教育課程や指導計画の見直しについては、まずはその都度各担任で行い、その後随時、全クラスで見直し検討することで振り返る機会をつくった。毎月末に行う予定であったものの、数ヵ月まとめて実施する月もあったが、3月にはすべて完成した。
- ・月に1度、クラスだよりを配付し、保育の様子や活動を通して育まれた「知・徳・体」について具体的な内容を取り上げ記載し、分かりやすく伝えられるように努めた。5歳児のクラスだよりには、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を取り入れ、教師も保育を振り返る機会となった。また、就学前教育カリキュラムの取組や子どもたちの姿、育ちについて、どのようにすれば保護者の方に分かりやすく伝えられるのかを考えたり、工夫したりして作成することは、教師の資質向上にもつながった。また、昨年度に引き続き、各クラスで配付するだけでなく、3クラスのクラスだよりを掲示することで他クラスの保育内容にも関心をもってもらえるようになった。
- ・今年度は就学前教育カリキュラムの研究を進めていく中で、保護者の方にもより分かりやすく研究内容や「知・徳・体」の育ちを伝えることができるよう、クラスだよりの内容の一つの活動に着目し、掲載している写真の1枚から読み取れる子どもたちの「知・徳・体」の育ちを色分けして記載して伝えられるように新たに取り入れた。1枚の写真に焦点をあて、子どもたちの育ちをより詳しく読み取って伝えることで、一つの遊びをただ楽しんでいるのではなく、その中には各学年の育ちが見られたことを発信することができた。
- ・就学前教育カリキュラムの研修（活用編・応用編）にも積極的に参加し、学んだことを教職員間で伝達したり、研究発表に取り入れたりすることで教職員の資質向上にもつながった。
- ・子どもたちの成長を保護者の方に伝えられるように、学期末にパワーポイントを作成した。日々の保育の中での子どもたちの姿の写真をたくさん取り入れ、学年ごとに「知・徳・体」の育ちを分かりやすく伝えられるように工夫した。この時間は、保護者のみということもあり画面に集中し、関心をもって聞いている姿が見受けられた。
- ・今年度は、『就学前教育カリキュラム研究報告会』に向けて教職員間で月に1回以上の話し合いを重ねてきた。7月と11月に実施した公開保育の内容や保育案作成について、何度も検討し共通理解に努めたり、研究報告会の中で取り上げる実践記録やパワーポイントの内容について検討、修正を重ねたりしてきた。
- ・公開保育の際には、大阪大谷大学の特任教授である講師の先生、大阪市教育委員会事務局指導部総括指導主事、保育・幼児教育センターの先生方、同じ研究を受けている園所の先生方など、たくさんの先生方にお越しいただき、子どもたちが夢中になって遊んでいる姿やその姿につながった教師の教育的意図をもった働きかけについて研究討議をしたり、研究報告の内容についてご指導いただいたりと教職員の学びも多く、資質向上につながった。
- ・2月、1年間の研究のまとめとして保育幼児教育センターにて研究報告を行った。1年を通して、「体を動かしながら夢中になって遊ぶ子どもが育つための教師の働きかけを考える」を研究主題としてあげ、子どもたちの姿や教師の働きかけを視点とし、教職員間で討議を重ねてきたことで、子どもたちの育ちを共有、検討する時間を多く確保した。保育に見通しをもち計画を立てたり、見直したり、振り返ったりする機会がより増え、1年を通して学びのある時間となった。

- ② 保護者アンケートで「お子さんは、自分なりに考えたり、工夫したりして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が88%、年度末が96%であり、目標の80%は達成した。
- 各クラスの子どもの実態を把握しながら、子どもの興味や関心を探り保育を進めてきた。3歳児は一人遊びが多く見られ、家庭で経験のあるブロック遊びや車遊びを楽しむ子どもが多く見られた。友達との関わりももてるよう、転がし遊びの環境をつくると友達の転がす車に興味をもち楽しむようになった。うまく転がったときには友達と一緒に喜ぶようになった。長いレーンを子どもたちとつくったことで、子どもたちが考えたり、工夫したりする姿が見られ遊びが発展していった。4、5歳児も遊びに興味をもって一緒に遊ぶようになったことで、4、5歳児から刺激を受け、真似たり、工夫したりする姿が増えていった。
 - 異年齢で遊べる環境づくりを教師間で話し合いながら取り組んできた。踊ることが好きな子どもの実態から、ダンスができる場をつくると教師や友達と一緒に踊りを楽しむ姿が見られた。5歳児で音楽の操作ができるように環境を整えると、3、4歳児も興味をもち、踊りたい曲を子どもたちで順番にセットできるようになり、次の曲を相談し、体を動かす楽しさにつながっていった。
 - 5歳児の電車ごっこ遊びでは、考えたり、工夫したりしてつくる時間を十分に確保すると、遊戯室や廊下を使って電車や線路、駅などをつくって遊んだ。3、4歳児も遊びに興味をもって一緒に遊ぶことにつながり、工夫しながら楽しむ姿が見られた。
 - 魚釣り遊びでは、5歳児の遊んでいる姿に興味をもち、4歳児も自分たちの魚をつくり、遊びへの意欲を高めた。色水の入ったペットボトルに、様々な素材で飾り付け、様々な重さ・形の魚ができたことで、重さや形に応じた竿を選んだり、全身を使いながら挑戦したりと、自分なりに考えたり、試したりしながら楽しむ姿につながった。
 - サーキット遊びでは、安全に遊べるような遊具の配置を子どもたちと考えたことで、更に、自ら体を動かして遊ぶことにつながっていった。3歳児は運動会で、遊園地ごっこ のイメージで遊んだり、園外保育（動物園）後には、いろいろな動物の動きを表現したりしながらサーキット遊びを楽しめるように環境の工夫をした。
 - 2学期も暑い日が続き、外遊びができない日が続いた。室内でも体を動かす遊びができるように遊戯室を開放し、涼しい場所で存分に体を動かして遊べるように環境構成について話し合い、工夫したことで遊びの充実が図れた。
 - 4歳児の玉入れでは、どのようにしたら玉が入るか考えたり、体の動かし方を工夫したりしながら遊びを継続したことで、できるようになる喜びや挑戦する気持ちがもてるようになった。5歳児は、リレーや綱引きの中で友達と相談して決めた作戦を実践したり、振り返ったりしながら勝負ある競技を楽しんだ。
 - 運動会での5歳児リズム『オリンピックごっこ』では、遊びの中でボール、一本歯下駄、手持ち旗の遊びを取り入れた。旗を使い、少人数のグループに分かれて、動きを考える機会をつくったり、考えた遊びを披露し合ったりした。自分なりの言葉で表現しながら旗を使って動きを考えたり、友達のアイデアを遊びに取り入れたりすることで互いの姿が刺激となっていた。また、グループごとに考えた動きを曲の中に取り入れたことで、子どもたちも自信をもって遊びを披露する機会となった。また、ボール遊びにおいて、ボールを持ちながら体の横で落とさないように回したり、ボールを投げたり、ついたりして挑戦していた。また、曲の途中で好きな遊びを披露する機会をつくったことで、ゴールにシュートをしたり、ボールを高く上げて落とさないように受け止めたりと自分なりの目的や目標をもって日々取り組む姿も見られた。一本歯下駄においては、障害物（エス棒）を跨いだり、坂道を通ったり、トンネルをくぐったりと適度な難度のあるコース

を子どもたちと考え、環境をつくった。いろいろな道具を使っての場づくりは、個々の様子に合わせて、挑戦することもでき、それぞれのペースで遊びに挑戦できたことも魅力の一つとなったようだ。

- ・劇遊びや楽器遊びの中で、自分のしたい役をしたり、必要な物をつくったり、工夫したり、積極的に取り組める場をつくることで、友達と一緒に遊ぶ楽しさを経験することにつながった。
 - ・互いの思いが違ったときには、相手にいろいろな思いがあることを考えたり、知らせたりする機会をもてるようにしてきたことで、友達の気持ちに気付けるようになった。
- ③・保護者アンケートで「お子さんは、健康的な生活習慣を身に付けていますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が67%で、年度末が74%であり、増えてきているが目標の80%を達成できなかった。「お子さんは、自ら体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が98%で、年度末が94%であり、目標の80%を達成した。
- ・基本的な生活習慣に関する保健指導を月に1回実施した。内容は、各学年の課題を見つけ発達段階に応じた指導内容を工夫して行った。

4月：身長・体重の測り方について

5月：歯の磨き方について

6月：熱中症対策、鼻のかみ方について

7月：朝ごはんの大切さと三大栄養素について

8、9月：水分補給について（3歳児）、けがの手当てについて（4、5歳児）

3歳児では、指導後お茶休憩の際、子どもたちの飲む量の確認を行い、熱中症対策も含め、コップ1杯分は必ず飲むことを定着するように努めた。

10月：手洗い・うがいについて（3歳児）、目について（4、5歳児）

3歳児では、2回目の手洗い、うがい指導。手洗いの確認を行い、2種類のうがい（ブクブクうがい、ガラガラうがい）の話を行った。現在では、場面に応じてうがいの使い分けを行えるようになった子どもも増えた。

11月：おやつの食べ方について（歯の健康について 3、5歳児）

フワフワ言葉とチクチク言葉（4歳児）

12月：感染症予防について

1月：からだのはたらきとうんちについて（5歳児）

絵本を活用し体の働きを理解した上で、うんちがどのように体の外に出ていくのか、うんちの種類についての話をしたことで、うんちに关心をもつ子どもが増えた。

うんち種類について（3、4歳児）

うんちについて关心をもつために絵本や紙芝居を活用し、うんちの種類を視覚教材を使って話をした。いいうんちを出すためのポイントを押さえて指導したことで、分かりやすく伝えることができ、关心を高めることができた。

2月：和式トイレの使い方（3歳児）

和式トイレを使用する上で、しゃがみ込み（カエル座り）が最も重要なことを話した。段ボールの和式トイレをつくり、カラーポリ袋のズボンを用意し、和式トイレをまたぎ、ズボンを脱ぐ・履くなどの練習を行ったことで、指導後、和式トイレを使用する子どもが増えた。

箸の正しい持ち方（4、5歳児）

箸の正しい持ち方と使い方について理解し、箸の練習を楽しみながら行えるよう工夫した。指導後、弁当の時間に正しい箸の持ち方ができているか確認する子どもが増えた。

3月：大きくなるってなあに？（5歳児）

耳のはたらきを知ろう（3、4歳児）

保健指導の内容を保健だよりやホームページを通して保護者に知らせ、家庭でも継続してできるように連携を図った。また、その指導で使った教材を保健室前や各クラス前に掲示することで、いつでも子どもたちが指導内容を振り返られるような環境を整えた。保健指導の実施内容をホームページに記載できていない月もあったので、毎月更新できるように心がけたい。

- ・6月には、歯科衛生士を招き、子どもには正しい歯の磨き方、保護者には講話をしてもらい、歯みがき指導を行った。歯科衛生士による指導を受けることで、歯の大切さについての意識が高まり、より丁寧に歯みがきに取り組む姿が見られるようになった。
- ・7月に栄養指導を行ったことから、1学期終業式には子どもと保護者に向けて、「早寝、早起き、朝ごはん」の話をし、基本的な生活習慣を身に付ける大切さについて知らせた。「早寝、早起き、歯みがき」のカレンダーを作成し、夏季休業中、家庭でも継続して取り組み、意識が高まるよう投げかけた。子どもたちが楽しみながら継続できるよう、カレンダーが完成する2学期には楽しみがあることを伝え、期待をもちらながらわくわく感を味わって継続できるように工夫した。
- ・1月には、大阪市生涯歯科保健推進事業講演会を行った。歯科衛生士による歯みがき指導を受けることで、歯みがきの大切さを改めて確認でき、今まで以上に弁当後の歯みがきを丁寧に行うという姿へとつながった。また、保護者向けの講話では人工甘味料についてや虫歯になりやすい人の特徴についての話があり、保護者も子どもの歯を守っていこうという意識が高まる機会となった。
- ・月に1回のお弁当だよりの発行は予定通り行えた。弁当を通して、沢山の食材を知ってほしいという思いをもち、旬の食材やその時期に応じて気を付けたいポイントなどについて保護者に知らせた。子どもたちと弁当に入っている食材について話をしたり、夏野菜と冬野菜の栽培を行ったりする中で、子どもたちも少しづつ食材への興味や食べることへの関心が高まってきたように感じる。
- ・週に1回、異年齢交流として集会を計画した。体操やダンス、ふれあい遊びなどを行い、季節や発達段階、子どもたちの興味に応じた教材を選ぶことで異年齢とふれあいながら体を動かす心地よさや楽しさを味わうことができた。また、夏には盆踊りを取り入れ、体操やダンスとは違った曲調や動きに親しみ、保護者の方とも一緒にを行い、楽しめる時間となった。また、異年齢で混ざり合いながら、鬼ごっこ遊びをすることもあり、5歳児の走るスピードが年下の子どもたちの刺激となったり、5歳児も年下の友達とふれあいながら積極的に遊びの輪に混ざって遊んだりとルールのある遊びを共に楽しんだ。
- ・各学年、保育を進めていくにあたり子どもたちの実態に応じて園庭や保育室の環境を見直し、検討したり、安全に怪我なく遊ぶことができるよう環境を整えたりすることを意識した。多様な動きを経験できるよう、跳ぶ、走る、這う、引っ張る、投げる、手足を曲げたり伸ばしたりする、合図を聞いて動く、バランスをとるなどの動きを遊びの中で取り入れ、子どもたちが体を動かして遊びたくなるように各学年で検討し、環境を整

えてきた。

- ・運動会のお土産では、3歳児・パカポコ、4歳児・短縄、5歳児・フラフープを渡し一人一つ必ず自分の遊ぶ道具があるという安心感、遊びたいときに遊ぶことができる道具があることでより家庭でも意欲的に遊びに挑戦するという姿につながった。
- ・生活発表会では、絵本のお話を基に劇遊びを行った。どのクラスも劇の雰囲気や役柄に応じたピアノの伴奏を意識し、ピアノの音に合わせていろいろな表現方法を楽しめるように伴奏を工夫したり、年齢に応じた内容を考えたりして進めてきた。一人一人伸び伸びと表現するする姿が見られ、保護者の方に見てもらう喜びを味わったり、温かい拍手をもらったりしたことにより自信となっていた。

次年度への改善点

- ①
 - ・今後も教育課程・指導計画の見直しにおいて検討会の日程を予め決めておくようにし、定期的に実行できるように計画を立て、進めていくように努める。
 - ・今年度、就学前教育カリキュラムの研究を通して得た学びを生かし、今後も活用しながら進めていく。
 - ・引き続き、保護者に保育内容を分かりやすく伝えられる方法を考えたり、子どもの姿や育ちを写真や動画を取り入れたりしながら園生活を発信できるように努める。
- ②
 - ・考えたり、工夫したりしたくなるような環境をより工夫していく。
- ③
 - ・担任と連携を図り課題となる部分を保健指導として指導することを心がける。
 - ・保健指導を家庭でも継続してもらえるように、保護者との連携を図り、教材や指導内容を降園時に保護者に周知し、意識を高めてもらえるように努める。
 - ・自分の体を大切にするための指導を増やし、いのちの安全教育につなげられるようにする。
 - ・養護教諭の専門性を生かし、保健だよりや個別指導などを通して、食育指導を行っていく。
 - ・引き続き、子どもたちが多様な動きを経験したり、子どもたちの実態に応じて場を変化させたりしながら随時、保育内容や環境の場を見直し、工夫していくように努める。

大阪市立玉出幼稚園令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は、日々の保育の中で、保育内容や環境の工夫に努めていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。98%</p> <p>○ 令和6年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園は、地域や学校と連携し、交流することに努めていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。94%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【7-2 教員の資質向上・人材の確保】</p> <p>進んで研修会に参加したり、園内研修会で学び合ったりしたことを保育に生かし、教員の資質向上に努める。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研究保育の年間計画を立て、年に4回以上実施する。 ・月に1回以上、教材研究をする。 ・研修会で学んだことを伝達し合う。 	B
<p>取組内容②【9-1 教育コミュニティづくりの推進】</p> <p>地域や異校種との連携を図り、園の教育内容を発信する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や異校種との連携を密にしながら、交流計画を立て実施する。 ・ホームページや写真掲示を活用し、幼稚園の取組について発信する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①
 - ・保護者アンケートの「幼稚園は、日々の保育の中で、保育内容や環境の工夫に努めていますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が96%、年度末が98%であり、目標の80%を達成した。
 - ・5月に4歳児、6月に3クラスの保健指導、9月に5歳児の園内研究会を実施した。5、9、12月には、教育指導員を招き、子どもの楽しむ姿から就学前教育カリキュラムをもとに「知・徳・体」の育ちやその中にある教師の教育的意図をもった働きかけを付箋にかいて、ホワイトボードにまとめながら、研究討議会を行った。教職員で保育を見合い、意見を出し合うことで、担任が気付かなかった子どもの夢中になって遊ぶ姿やその姿につながった教師の教育的意図をもった働きかけを知ることができた。また、園独自のワークシートに教職員が学んだことを記載して活用したことは、資質向上へつながった。12月には、生活発表会に向けて各クラスの指導要請も行った。各クラスの保育を見合いながら、意見を出し合うことで、劇遊びの中で、子どもたちが伸び伸びと体を動かし、表現できるような指導の在り方を学んだ。夢中になって遊んでいる子どもの姿から読み取れる教師の教育的意図をもった働きかけについて、多面的に子どもを捉えられる学びの場となった。こうした話し合いの場をたくさんもってきたことで、いろいろ

な保育観を知ることができ、教師の資質向上につながった。

- ・週に一度、集会で異年齢交流を含め季節に合ったふれあい遊びや体操を行い、誕生会に取り入れたことで、好きな遊びの時間でも遊ぶ姿が見られた。4月は『ひっつきもっこり』『サンサン体操』、5月は『ジャングルぐるぐる』『ダンゴムシロック』、6月は『さくらんぼマンボ』『チェケマッチョ』、7月は『まねっこピーナッツ』『エビカニクス』、8月は『おとなこうえん』『バナナくんたいそう』、9月は『カマキリマッサージ』『オリンピア体操』、10月は『おおきくなったら』『おやつたべよ』、11月は『どろぼうネコとネズミけいぶ』『りんごアップルン』、12月は『サンタはいまごろ』『おでんぐつぐつ体操』、1月は『がたんごとんれっしゃ』『こままわし やっ！』、2月は、『こすれこすれ』『マンボジンベタツ』、3月は、『大好きツイスト』『誕生月なかま』、縁日ごっここの盆踊りでは『月夜のポンチャラリン』『アラレちゃん音頭』を行った。新入園児一日入園では、『ともだちできちゃった』を行い、在園児と入園予定の子どもたちが少しでも親しめたらと予定している。
 - ・子どもが思わず体を動かしたくなるようなふれあい遊びや体操の曲について教材研究をしたり、全園児が無理なく体を動かすことのできる振り付けを考えたりすることで、異年齢交流や各クラスの保育にも生かしていくことができ、教員の資質向上につながる機会となった。
 - ・研修会に積極的に参加し、様々な分野における専門的な話を聞き、自分なりの学びを書き留めまとめることに努めた。口頭での伝達だけではなく、まとめたものや研修資料を回覧することで、周りの教職員も研修内容についてじっくりと知ることができ、教職員の学びへとつながった。
- ②
- ・保護者アンケートの「幼稚園は、地域や学校と連携し、交流することに努めていますか」の項目において最も肯定的な回答をした割合は、1学期末が92%、年度末が94%であり、目標の80%を達成した。
 - ・西成警察署の方による交通安全指導や西成消防署の方による火災訓練、西成図書館のボランティアの方による絵本の読み聞かせなど、地域の施設の方との連携を図った。様々な人との関わりをもつことで、地域の中で育っているという意識を高められる機会となった。
 - ・地域の方を招いて、伝統野菜である勝間南瓜を植え、栽培方法を教えていただき、野菜について詳しく知ることができた。伝統を受け継いでいく大切さについて気付くことができた。
 - ・大阪880万人訓練では、玉出小学校を避難場所として借りるだけでなく、5年生が避難場所まで手をつないで連れて行ってくれる関わりをもつことができた。事前の打ち合わせをしっかりと行うことで、スムーズな交流を行うことができた。
 - ・5歳児は、近隣の幼稚園へとザリガニ釣りに出かけた。釣り方を教えてもらったり、一緒に遊んだりする中で、同じ年齢の友達に親しみの気持ちをもち、ふれあう楽しさや心地よさを感じることができた。
 - ・近隣の中学生が職場体験として来園し、中学生との交流の中で、年上の人から優しくされる嬉しさを味わうことができた。そうした気持ちが、自分より年下の友達や未就園児に優しく接するという姿につながっていった。
 - ・11月には、元保護者である地域のヴァイオリニ奏者の方を招き、ヴァイオリン・ピアノコンサートを開催することができた。本物の楽器の音色にふれるという貴重な体験ができ、心が動く機会となった。また、プロの奏者と保護者との合奏を計画するこ

とで、保護者も地域の方とのつながりを感じることができた。

- ・12月の作品展には、玉出小学校、玉出中学校の校長先生、教頭先生方が来園してくださいり、園児の作品を見てくださったことで、3・4・5歳児の発達段階や幼稚園の取組について知ってもらうことができた。
- ・2月末には、5歳児が玉出小学校に学校見学に行かせてもらうことができた。1年生の授業の様子を見せてもらったり、一緒にふれあったりして楽しい時間を過ごせたことは、進学に不安を抱いている子どもの気持ちを安心感に変え、小学校生活のイメージをふくらませられる機会にもなり、進学への期待が高まった。
- ・ホームページでは、子どもの様子や園の取組について、分かりやすく伝えるということを意識しながら更新することができた。保護者向けだったり、地域向けだったりと、内容は様々なので、誰が見ても分かりやすいようにと心がけた。
- ・保護者に向けては、園内での子どもの様子の写真掲示を行った。保護者と離れてからの子どもの表情や取組の様子を貼り出すことで、特に入園当初の写真掲示は、保護者の方の安心感にもつながった。
- ・今年度は、就学前教育カリキュラムパイロット園所の研究を受け、そのことに関しても保護者へと発信した。研究保育や研究会のことについて、降園時の連絡やホームページで知らせることで、園での研究の取組やその中の子どもたちの育ちについての理解や協力を得ることができた。

次年度への改善点

- ①
 - ・今後も教材研究に努め、教員の資質向上につなげる。
 - ・引き続き、研修に積極的に参加し研修内容を教職間で回覧し共有する。
- ②
 - ・校種間での交流について、無理なくできる方法を早い段階で相談して行えるようにし、架け橋プログラムにつなげていく。

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立玉出幼稚園学校協議会

1 総括についての評価

本年度の幼稚園の自己評価結果は妥当である。

最終評価では、保護者の教育活動に対しての理解度が高いことがわかった。ただ、目標を達成できていない項目もあるので、次年度は家庭との連携をより図りながら、そこに重きを置いて取り組んでいただきたい。

今後も地域や保護者と一丸となって一層の教育推進を図られたい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○令和6年度末の保護者アンケートにおいて

- ・「お子さんは、安全な生活のための約束を知り、守ろうとするようになりましたか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- ・「幼稚園は互いを思いやる気持ちを育てていますか」「お子さんは、いろいろな遊びや活動に自分から進んで取り組み、楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- ・「幼稚園はお子さん一人一人の実態に応じた支援をし、互いが認め合える学級経営をしていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

○達成状況の評価は妥当である。

○目標を達成できていない項目は、家庭での協力が必要なもの。今後、家庭とのより一層の連携を図り、取り組んでいただきたい。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和6年度末の保護者アンケートにおいて

- ・「幼稚園は就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の育ちについて分かりやすく伝えていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- ・「お子さんは、自分なりに考えたり、工夫したりして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- ・「お子さんは健康的な生活習慣を身に付けていますか」「お子さんは、自ら体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

○達成状況の評価は妥当である。

○幼稚園での生活や行事が、何のためにあるのかということを、わが子の成長から保護者も理解できているということがわかるアンケート結果だった。

○子どもだけでなく保護者も、先生との信頼関係が築かれていることがよく伝わってきた。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

○令和6年度末の保護者アンケートにおいて

- ・「幼稚園は、日々の保育の中で、保育内容や環境の工夫に努めていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
- ・「幼稚園は、地域や学校と連携し、交流することに努めていますか」の項目に最も肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

○達成状況の評価は妥当である。

○幼稚園と小学校の担任同士の打ち合わせをすることで、小学校見学の内容がより深いものとなっている。今後も、教職員での連携を深めながら、意味のある異校種交流を行っていってほしい。

○地域の幼稚園として子どもとともに成長していってほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

今年度の運営に関する計画は、とてもわかりやすい具体的な内容が掲げられていた。幼稚園での日々の取組が、保護者にとっても子育ての振り返りとなるということを意識しながら、今後もきめ細やかさをもち、地域・保護者との連携を密にして、保育に取り組んでいってほしい。